資料１

# 史跡仙台城跡東丸（三の丸）土塁整備検討資料（第２回）

【前回審議事項の振り返り】

1. 整備の方向性
2. 前回委員会でのご意見への対応

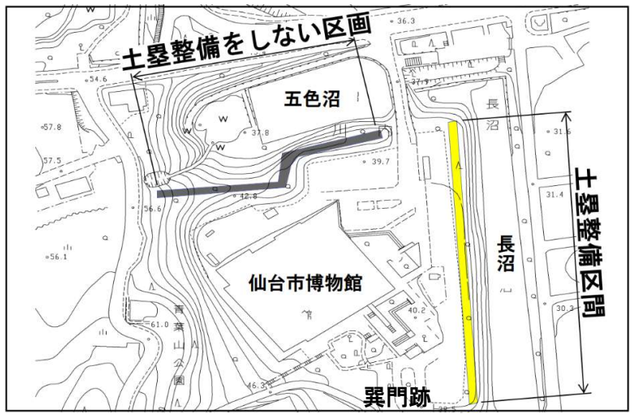
【審議項目】

1. 整備基本計画上の位置付け
2. 園路整備計画

# 1．整備の方向性

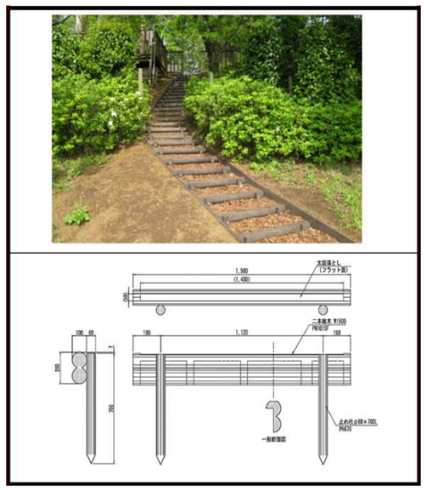
①園路整備については、東側土塁のみ行うこととし、北側土塁は行わない

＜北側土塁の整備を実施しない理由＞
北側土塁は高低差が大きく安全性に懸念があるとともに、バリアフリー計画が困難なため




②階段整備は「擬木階段」を採用する

＜採用理由＞
景観性、安全性、維持管理性に優れる

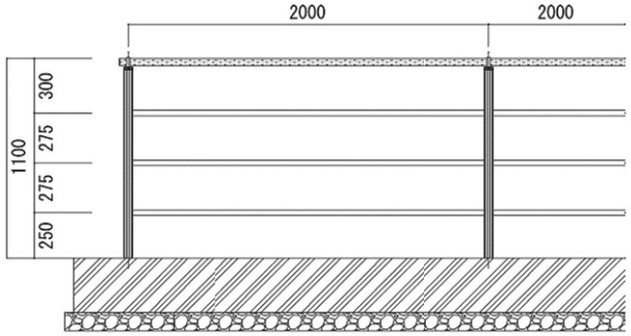


※手摺については、景観を考慮し、同じ擬木を使用すべきとの意見を踏まえ、今後検討する

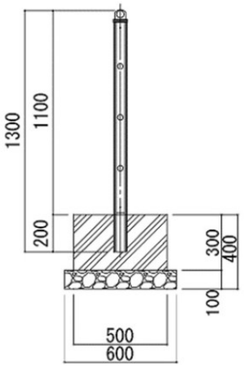
③安全柵は「転落防止柵（アルミ製＋合成木材）」を採用する

＜採用理由＞
生垣やロープ柵と比べ、安全性や景観性に優れる
※土塁からの転落防止の観点から、歩行者自転車柵の基準強度(P 種)を有した規格の転落防止柵とする（下図参照）

立面図




側面図



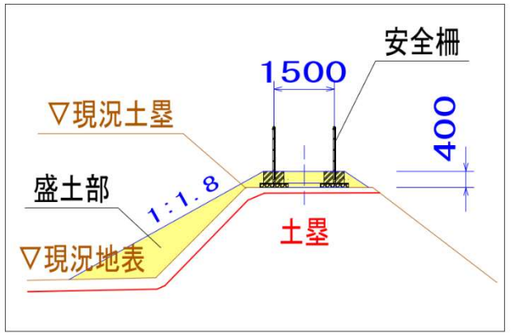

※柵の色味や手摺部分の素材等については、本市の関係条例を踏まえるとともに、周辺の類似施設との統一性も確認しながら、今後検討する

## 2.　前回委員会でのご意見への対応

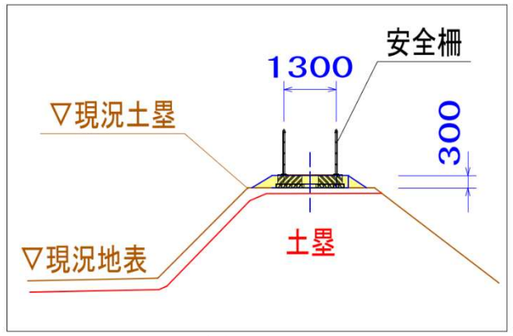
### ①「土塁法面の形状を損なわないために、安全柵の基礎を薄くすることを検討すべき」

【検討結果】
工法を再検討し、盛土厚を当初計画よりも100㎜薄く変更する
盛土厚　従前案（図A）400㎜　→　変更後（図B）300㎜

図A



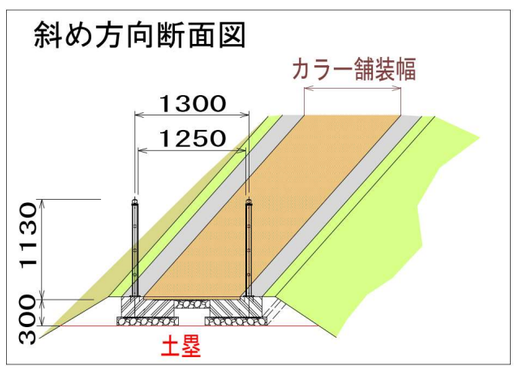

図B




凡例　盛土部

### ②「園路舗装については、バリアフリーの観点から車いすが通行しやすいものにすべき」

【検討結果】
バリアフリーを考慮し、土系舗装を採用する

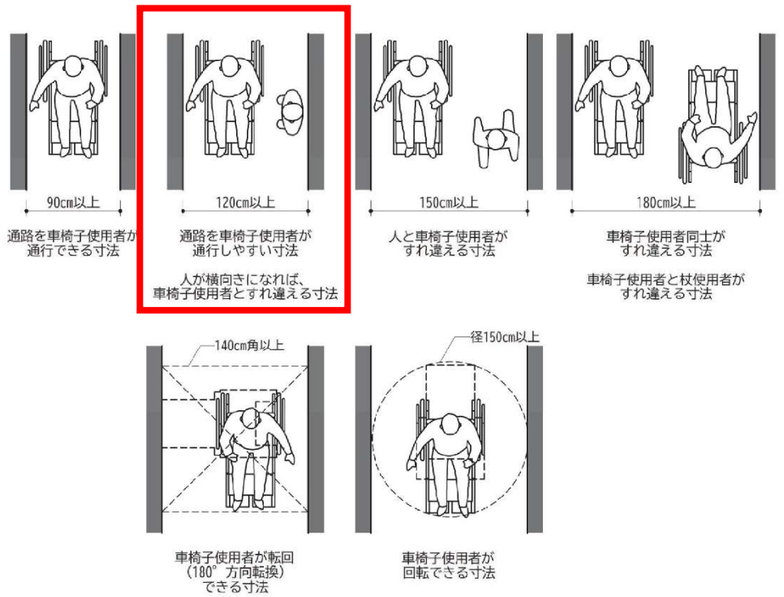


イメージ写真

### ③「土塁の園路幅は1.5m（1500㎜）必要か？」

【検討結果】
国の建築設計標準「人が横向きになれば車いすとすれ違える寸法（1200㎜）」を最低限確保できる幅まで縮小する
園路幅　従前案（図A）1500㎜　→　変更後（図B）1300㎜

| 寸法 | 意味 |
|---|---|
| 80cm | 車椅子で通過できる寸法 |
| 90cm | 車椅子で通過しやすい寸法<br>通路を車椅子で通行できる寸法 |
| 120cm | 通路を車椅子で通行しやすい寸法<br>人が横向きになれば車椅子使用者とすれ違える寸法<br>杖使用者が円滑に通過できる寸法 |
| 140cm | 車椅子使用者が転回（180度方向転換）できる寸法<br>杖使用者が円滑に上下できる階段幅の寸法 |
| 150cm | 車椅子使用者が回転できる寸法<br>人と車椅子使用者がすれ違える寸法 |
| 180cm | 車椅子使用者が回転しやすい寸法<br>車椅子使用者同士がすれ違える寸法 |



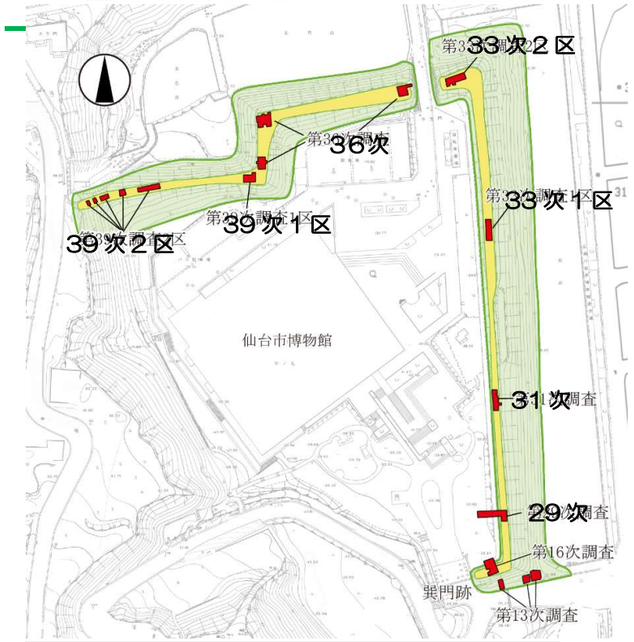

出典：高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準（国土交通省）

## 2.　前回委員会でのご意見への対応

### ④「絵図等での土塁の描写や発掘調査の結果は？」

- 北側土塁では、土塁上に塀が描かれている時期がある（正保 3～天和２年頃）
- 東側土塁では、北端の東西方向の一部（子門脇）に塀が描かれている時期がある（正保 3～天和 2 年頃）が、南北方向（今回整備範囲）には描かれていない
- 土塁上の描写は、北側・東側土塁とも、天和 2 年頃以降、道のようなものが描かれる描写が見られるが、これは他の塀や建物に描かれている描写とは異なり、塀ではなく土塁の上端を表現しているものと考えられる

土塁の発掘調査区（※赤が調査区）




【北側土塁】
２時期の塀跡と考えられる石列が確認されている

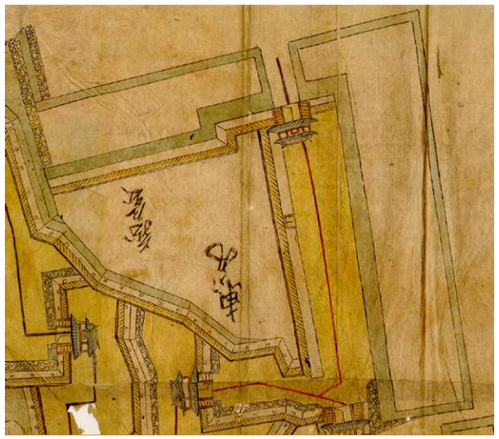
【東側土塁】
- 柵や塀に関する遺構は確認されていない
- 植栽による攪乱がみられる
- 33 次調査２区では瓦がまとまって出土している
- 土塁上の表土厚は 3～30 ㎝程度
（最深部は攪乱で乱れた部分の深さ）

（西暦）1645 年/（和暦）正保２年
（資料名）奥州仙台城絵図「正保絵図」
（所蔵）仙台市博物館

（土塁の描写）
【北側土塁】
土塁上に施設等は描かれていない
【東側土塁】
土塁上に施設等は描かれていない

（西暦）1668 年/（和暦）寛文８年
（資料名）仙台城修理伺絵図
（所蔵）仙台市博物館

（土塁の描写）
【北側土塁】
土塁上に塀が描かれている
【東側土塁】
子門脇に東西方向の塀が描かれている
南北方向には施設は描かれていない



（西暦）1661～1672 年/（和暦）寛文頃
（資料名）本丸二の丸絵図
（所蔵）仙台市博物館
（土塁の描写）
【北側土塁】
土塁上に塀が描かれている
【東側土塁】
子門脇に東西方向の塀が描かれている
南北方向には施設は描かれていない

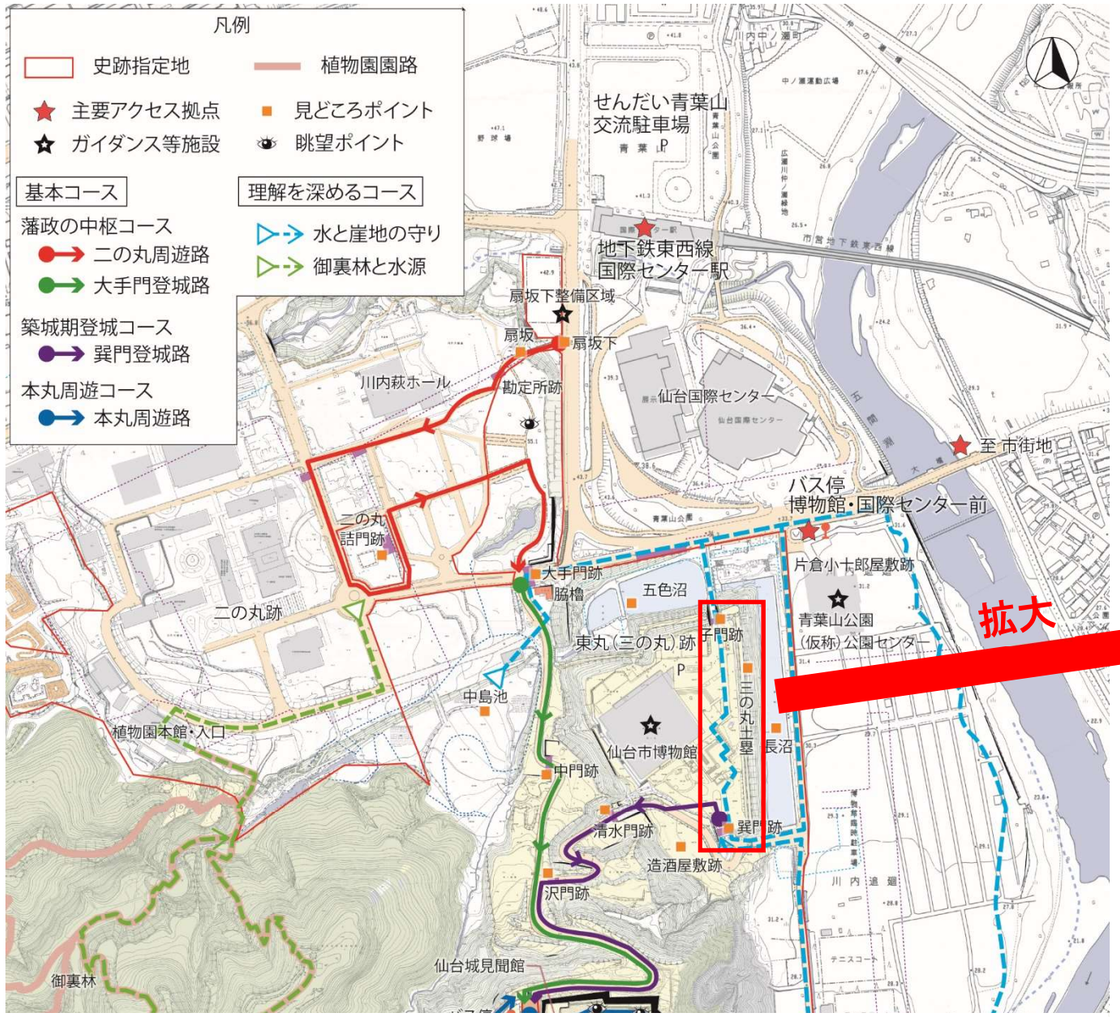
（西暦）1694 年/（和暦）元禄７年
（資料名）仙台城修復窺絵図
（所蔵）仙台市博物館

（土塁の描写）
【北側土塁】
土塁上に道のようなものが描かれる
【東側土塁】
土塁上に道のようなものが描かれる

【審議項目】

# 1.整備基本計画上の位置付け

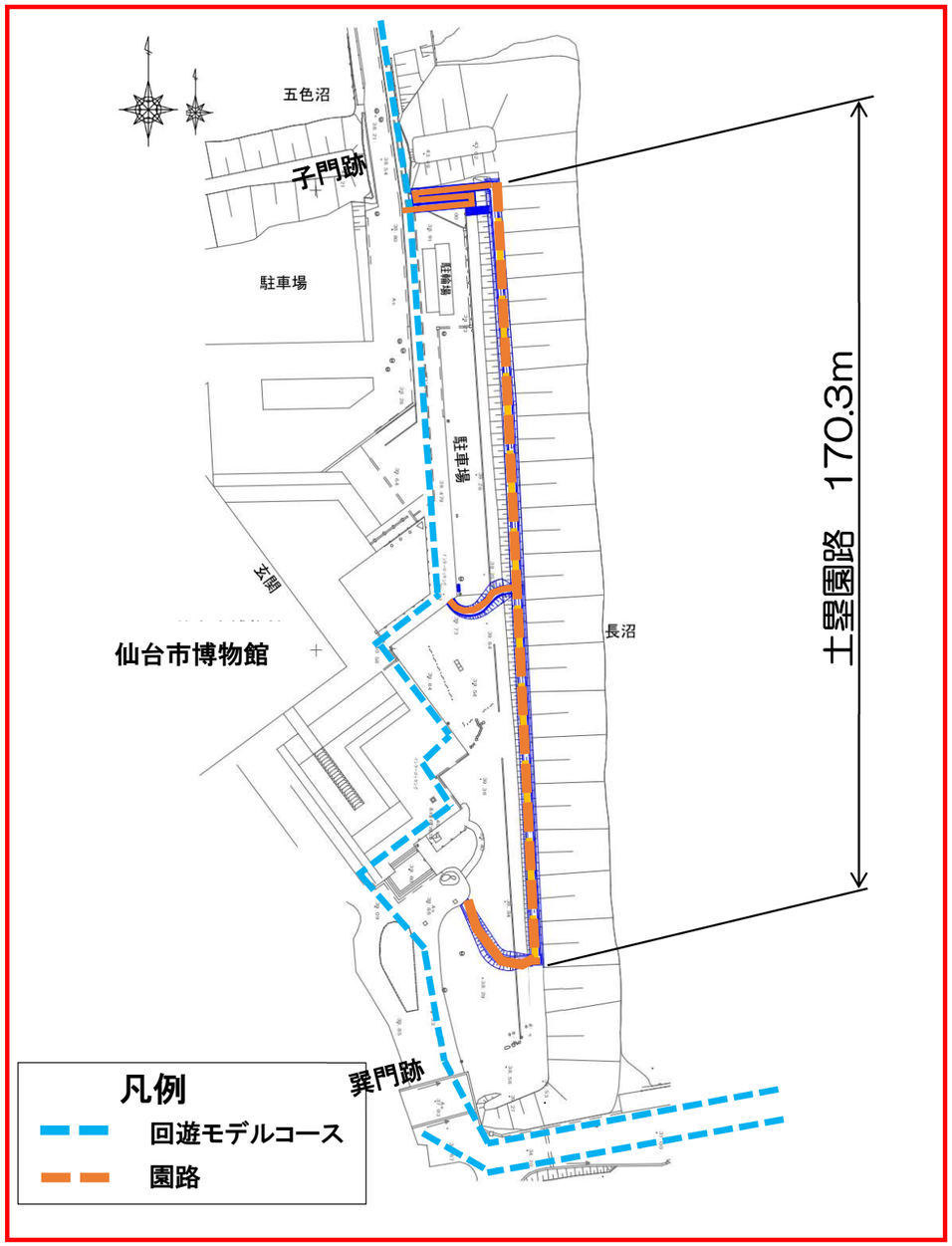
三の丸土塁付近は、史跡仙台城跡整備基本計画上、回遊モデルコース「理解を深めるコース・水と崖地の守り」の一部となっている。




理解を深めるコース

| | |
|---|---|
| 水と崖地の守り（約3.0km）<br>所要時間：約60～80分 | 自然を利用した仙台城跡の城郭構造を見学できるコースです。御清水から流れ込む水が作る中島池・五色沼・長沼や広瀬川と、広瀬川や竜の口渓谷によって作られた本丸跡の崖地が見学できます。 |

今回整備する土塁は、<u>この回遊モデルコースを補完するもの</u>として、土塁上からの長沼の景色を楽しむ、また城の防御として機能を実感できる通路として位置付けることとしたい。



## 2.園路整備計画

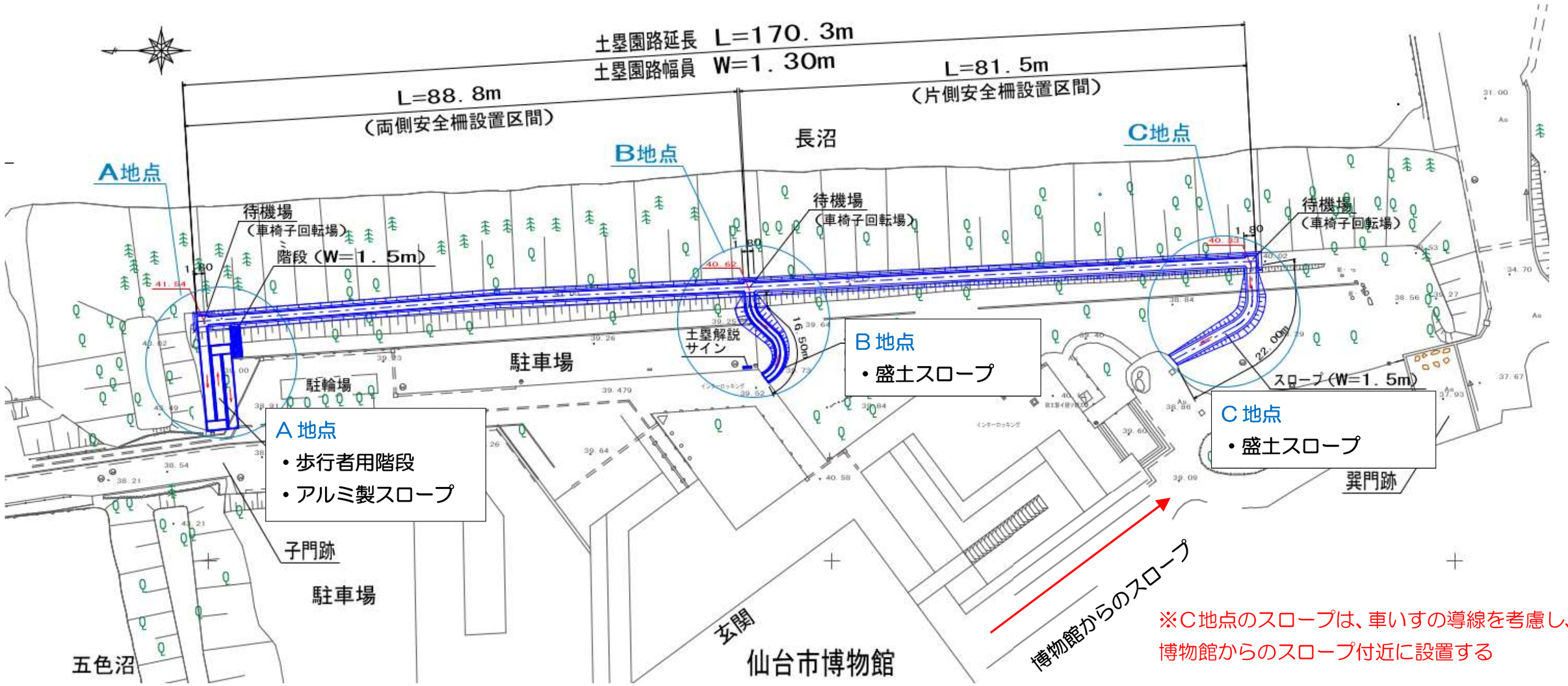
### ①安全柵、昇降経路（スロープ）

#### ①－１　安全柵

- 安全柵は、原則として長沼側にのみ片側設置とする。
- ただし、Ａ－Ｂ地点は、高低差があることに加え、博物館側に駐車場があり、安全性をより高める観点から、両側設置としたい。

#### ①－２　昇降経路（スロープ）

- 昇降経路は、Ａ（起点（終点)），Ｂ（中間），Ｃ（終点（起点））の３箇所に設置する。
- ３昇降経路は、すべて博物館内の歩道に接続し回遊性を高める。
- ３昇降経路は、すべてバリアフリーを考慮した仕様とする。




※Ｃ地点のスロープは、車いすの導線を考慮し、博物館からのスロープ付近に設置する

## 【審議項目】

②昇降経路詳細

②-1　A地点

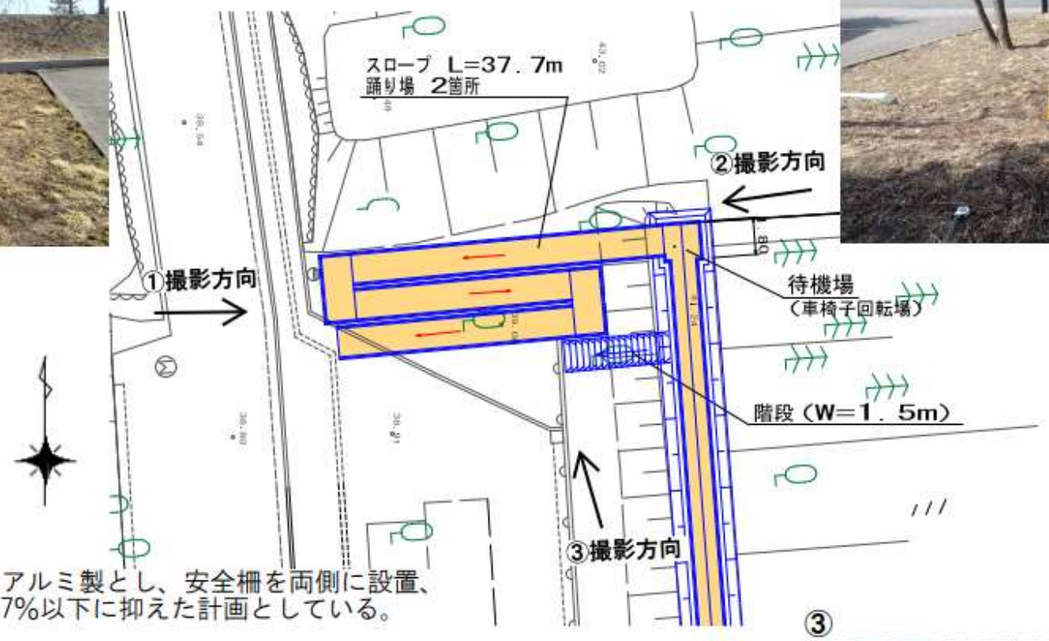
・高低差があるため、アルミ製の歩行者用階段及びスロープを整備し、
博物館側との回遊性を確保する。

・スロープは、車椅子対応を考慮し、勾配７％以下とする。

①

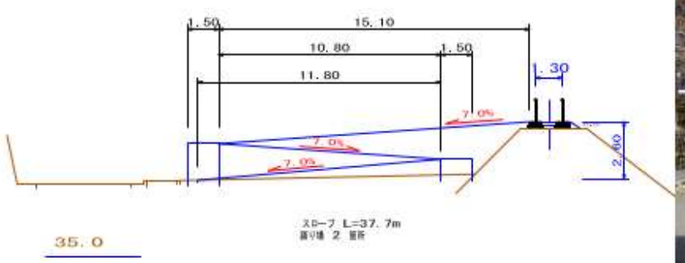
②

A地点平面図



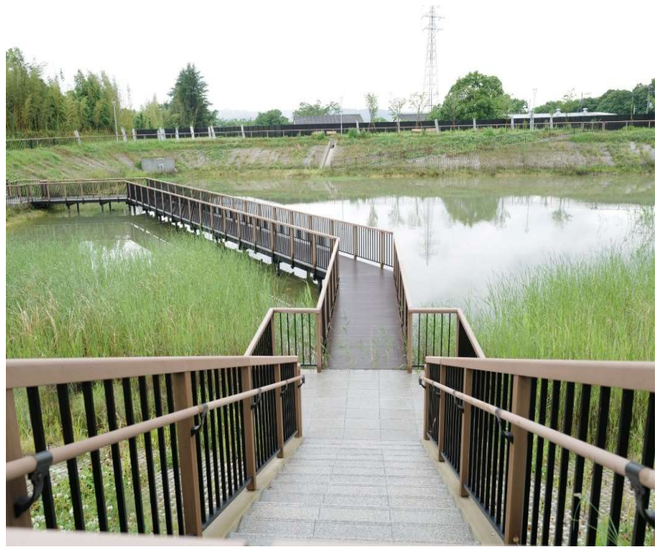

※スロープの材質は金属系のアルミ製とし、安全柵を両側に設置、
車椅子対応の登坂勾配は、7%以下に抑えた計画としている。

A地点断面図




③

製品参考写真



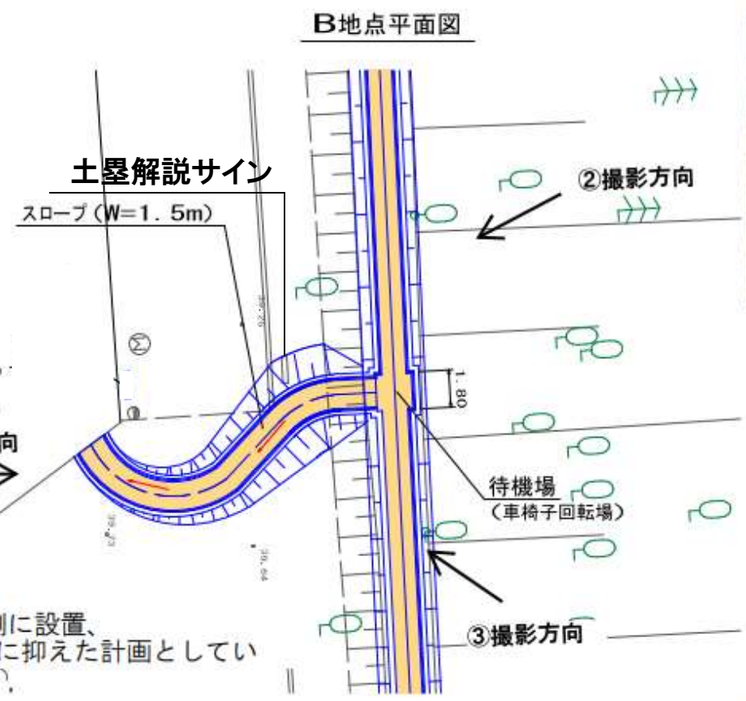
## 【審議項目】

②-２　Ｂ地点

・高低差が少ないことから、遺構保護の観点から盛土のスロープとする。

・スロープは既設の土塁解説サインの脇を通る形とし、通行者にサインの視認を促し、史跡地の理解促進と回遊性の向上を図る。

①

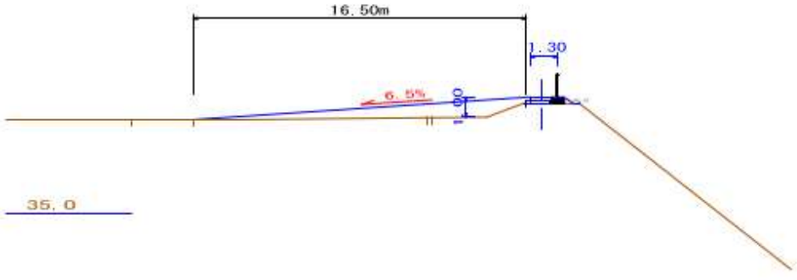



②

※スロープは盛土とし、安全柵を両側に設置、
車椅子対応の登坂勾配は、7%以下に抑えた計画としてい

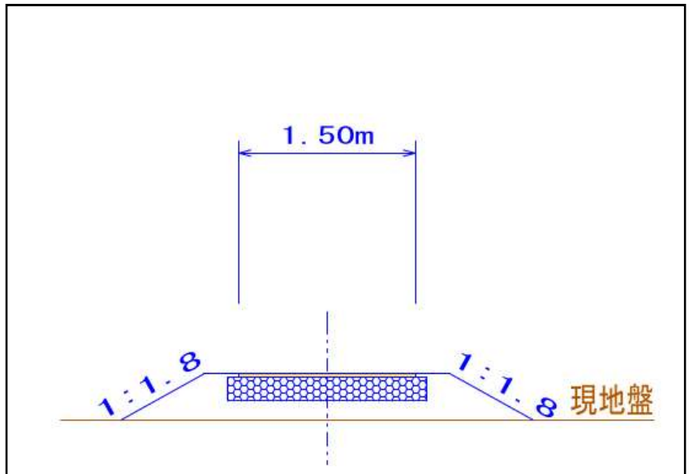
土塁解説サイン

B地点断面図

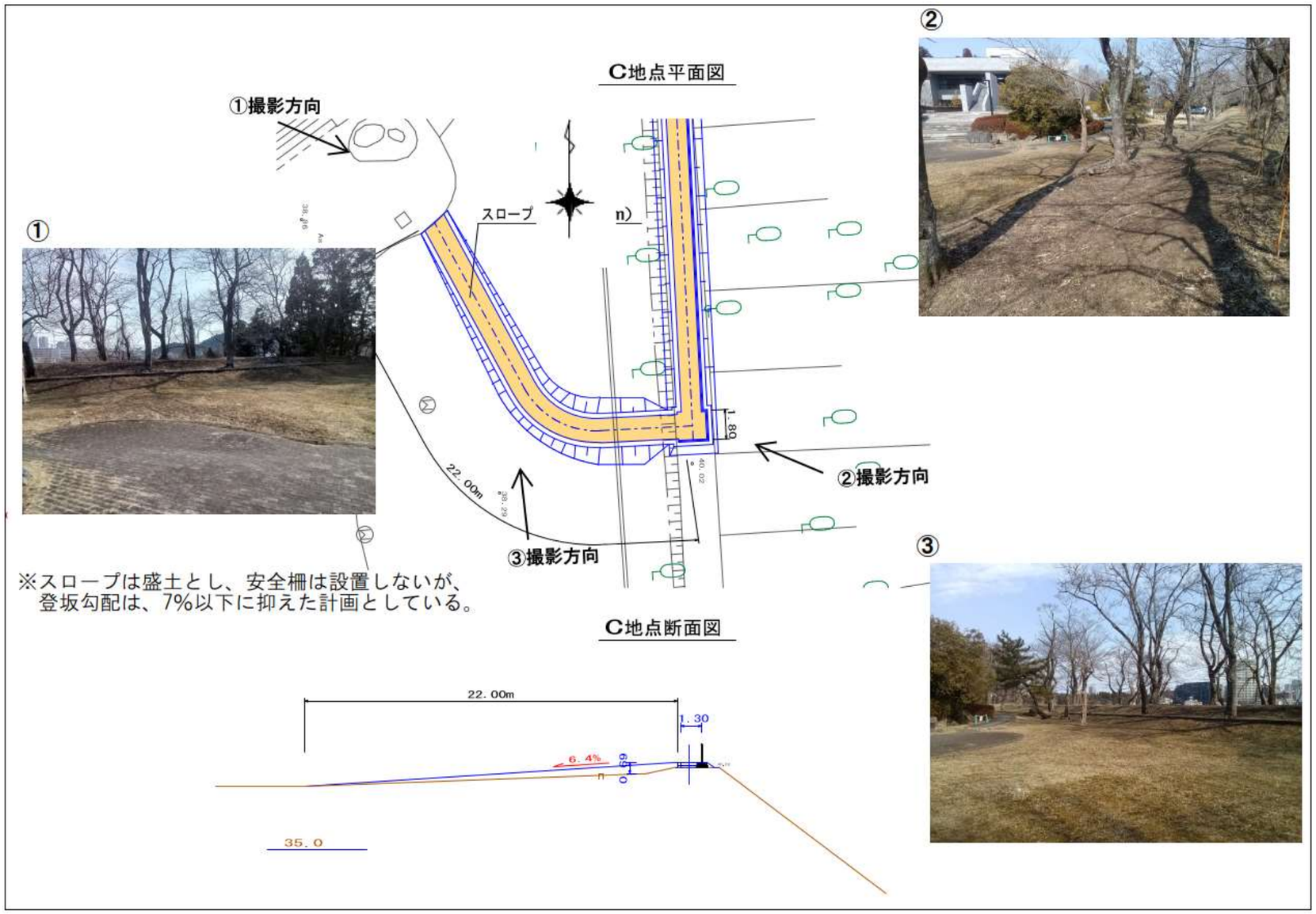


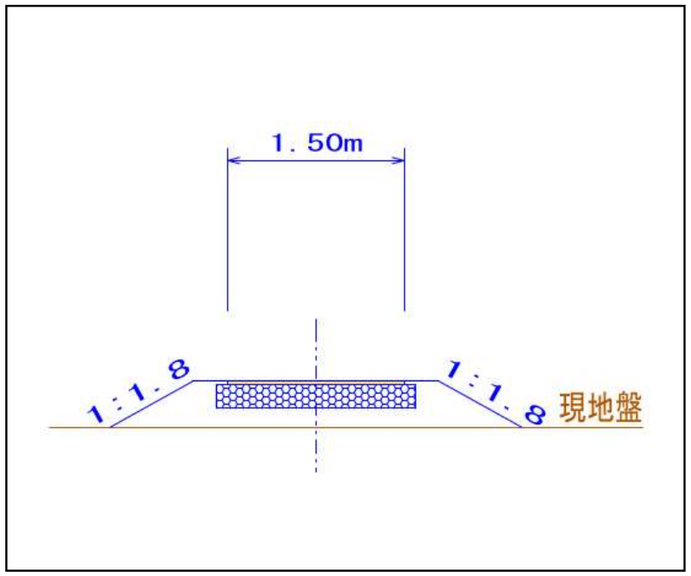

③

参考断面



②-3　C地点
- 高低差が少ないことから、遺構保護の観点から盛土のスロープとする。
- スロープ上の舗装は、園路と同様の土系舗装を採用する。




参考断面